

平成23年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用予定者編】（第1回）

1. 調査の概要

今後5年以内に具体的な住宅取得に伴い、民間住宅ローンを利用予定の方を対象にして、住宅取得に向けた行動や利用予定の住宅ローンの金利タイプなどに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(6/15～6/17)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:892件。

2. 調査結果の主なポイント

(1) 「全期間固定型」の希望割合は減少、「変動型」は増加

- ・ 「全期間固定型」の希望割合は、4割程度で推移していたが、36.4%とやや減少し、「変動型」の希望割合は、29.9%とやや増加。 <p.2>

(2) 住宅の買い時意識は低下

- ・ 今(今後1年程度)は、住宅取得のチャンス(買い時)だと思う方の割合は、46.0%に減少、「分からない」は39.5%に増加、「そうは思わない」は14.6%に増加。 <p.8,9>

(3) 東日本大震災により、住宅取得時に特に重視するものは変化

- ・ 住宅取得時に特に重視するものを震災の発生前後で比較すると、耐震性能、立地、省エネ性能、耐久性等が増加。 <p.10>
- ・ 住宅取得時に耐震性能を重視すると回答された方の48.8%が、「コストアップしても、耐震性能を高めたい」と回答。その場合のコストアップ許容度は、5～10%程度。 <p.11>
- ・ 住宅取得時に省エネ性能を重視すると回答された方の67.9%が、「コストアップしても、太陽光発電設備を設置したい」と回答。その場合のコストアップ許容度は、5～10%程度。 <p.13>